

みずほマーケット・トピック(2025 年 9 月 19 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

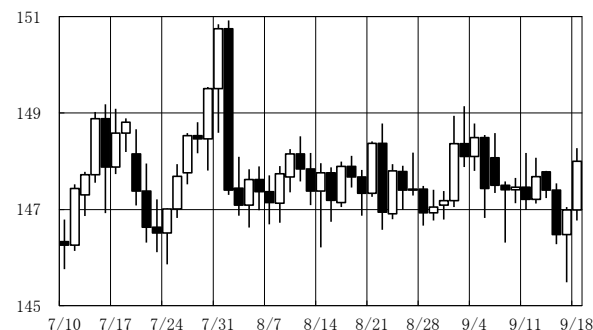
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円は週半ばにかけじり安も、その後は反発した。週初15日、147.65円でオープンしたドル/円は本邦休場で薄商いの中、じり安の展開。海外時間は、材料難となる中、147円台前半で小動きとなった。16日、ドル/円は自民党総裁選の関連報道を背景とした円買い相場が重しになり、147円を割り込んだ。海外時間は、米8月小売売上高の予想を上回る結果を受け147円台を回復する時間帯も見られたが、米金利の低下基調が重しとなり、146円台前半に続落した。17日、ドル/円は様子見ムードが強く、146円台半ばで横ばい推移。海外時間は、FOMCが予想通り▲25bpの利下げを発表し、公表されたドットチャートがハト派的と解釈されると、一時週安値となる145.50円に急落。その後は、パウエルFRB議長会見が市場予想ほどハト派的ではなかったことが材料視され、米金利の動きに連れて147円付近に反発して引けた。18日、ドル/円はドルの買い戻しが続き147円台半ばへ続伸。海外時間は、米新規失業保険申請件数の市場予想を下回る結果を受けた米金利上昇が好感され、一時週高値となる148.26円まで上値を伸ばした。本日のドル/円は、引き続き148円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは年初来最高値を更新するなど堅調に推移した。週初15日、1.1728でオープンしたユーロ/ドルは米金利低下が下支えとなり、1.17台後半へ上昇した。16日、ユーロ/ドルは米金利続落が好感され、1.18台後半に続伸した。17日、ユーロ/ドルはFOMCの政策決定直後には2021年6月以来の高値となる1.1918に急伸したが、その後はパウエルFRB議長会見をこなす中で1.18台前半に反落した。18日、ユーロ/ドルは米労働関連指標の堅調な結果を受けたドル買いが重しになり、一時1.17台半ばに続落した。引けにかけては、ドル高の一服を受けて1.17台後半に値を戻した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.17台後半で取引されている。

		前週末	今 週			
		9/12(Fri)	9/15(Mon)	9/16(Tue)	9/17(Wed)	9/18(Thu)
ドル/円	東京9:00	147.24	147.65	147.41	146.41	146.90
	High	148.08	147.77	147.54	147.04	148.26
	Low	147.13	147.24	146.28	145.50	146.78
	NY 17:00	147.66	147.42	146.47	146.97	147.99
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1733	1.1728	1.1763	1.1872	1.1825
	High	1.1747	1.1774	1.1878	1.1918	1.1848
	Low	1.1702	1.1717	1.1757	1.1808	1.1751
	NY 17:00	1.1734	1.1760	1.1869	1.1813	1.1784
ユーロ/円	東京9:00	172.70	173.05	173.37	173.79	173.68
	High	173.44	173.45	173.80	173.85	174.42
	Low	172.70	172.91	173.03	173.11	173.54
	NY 17:00	173.23	173.40	173.80	173.64	174.41
日経平均株価		44,768.12	-	44,902.27	44,790.38	45,303.43
TOPIX		3,160.49	-	3,168.36	3,145.83	3,158.87
NYダウ工業株30種平均		45,834.22	45,883.45	45,757.90	46,018.32	46,142.42
NASDAQ		22,141.10	22,348.75	22,333.96	22,261.33	22,470.72
日本10年債		1.59%	-	1.60%	1.59%	1.60%
米国10年債		4.07%	4.04%	4.03%	4.09%	4.11%
原油価格(WTI)		62.69	63.30	64.52	64.05	63.26
金(NY)		3,686.40	3,719.00	3,725.10	3,717.80	3,678.30

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、26日(金)に8月個人消費支出(PCE)デフレーターが公表予定となっている。前回7月の結果は、総合ベースでは+2.6%(前年比、以下同様)と市場予想および6月と一致した。一方、コアベースでは、+2.9%と市場予想に一致したものの、6月の+2.8%から伸びが加速した。非コア部分の食品・エネルギー価格は+0.9%から+0.4%に伸びが鈍化した。加えてコア部分に関しては、財は+1.1%と6月の+1.0%から伸びが加速したうえ、サービス価格も+3.5%と高い伸び率が続く。なお、既に公表されている8月分の消費者物価指数(CPI)や生産者物価指数(PPI)は財の強さとサービスの弱さが併存するかたちになっており、これらと同じ傾向が続くかに注目したい。なお、ブルームバーグの事前予想では、8月の結果に関し総合ベースで+2.7%、コアベースで+2.9%と見込んでいる。
- 本邦では、25日(木)に日銀金融政策決定会合の議事要旨(7月会合分)が公表される予定だ。7月会合は政策金利の据え置きが続いたが、更新された展望レポートは物価見通しを中心に強めの内容が目立った。半面で植田総裁の会見においては、利上げ路線そのものは維持しつつも、前のめり感を感じられず、総じて慎重だった。8月8日には7月会合の主な意見も公表されたが、経済情勢に関しては強弱入り混じる記載だったのに対し、物価情勢に関しては上振れリスクに対する言及が多かったことが話題を集めた。金融政策運営に関する言及でも、「早ければ年内にも現状の様子見モードが解除」「過度に慎重になって、利上げのタイミングを逸することにならないよう、留意」等、タカ派的なコメントが目立った。
そのほか、22日(月)には自民党総裁選の告示日を迎える。本稿執筆時点までに、小林氏、茂木氏、林氏、高市氏が立候補を表明している。小泉氏に関しては、20日(土)の記者会見で正式に立候補表明する見通しだ。各種世論調査を確認する限り、小泉氏と高市氏が一步リードしている模様だ。もともと、誰が自民党総裁になるにしても、衆参両院で過半数割れをしている以上、政策を前に進めるためには野党による一定の協力が不可欠になる。この点、野党との連携体制構築にも注目をしていきたい。

	本 邦	海 外
9月19日(金)	・8月消費者物価指数 ・植田日銀総裁会見	・独8月生産者物価指数
22日(月)	・自民党総裁選 告示	・ユーロ圏9月消費者信頼感(速報)
23日(火)	・自民党総裁選 立候補者共同記者会見	・ユーロ圏9月製造業/非製造業PMI(速報) ・米9月製造業/非製造業PMI(速報)
24日(水)	・9月製造業/非製造業PMI(速報) ・8月工作機械受注(確報)	・独9月IFO企業景況感指数 ・米8月新築住宅販売件数
25日(木)	・日銀金融政策決定会合議事要旨(7月会合分) ・8月企業向けサービス価格指数	・米4~6月期GDP(確報) ・米8月中古住宅販売件数
26日(金)	・9月東京消費者物価指数	・米8月個人所得/支出 ・米8月個人消費支出デフレーター ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2025年9月~)】

自民党総裁選(9月22日告示、10月4日投開票)
 FOMC(10月28~29日、12月9~10日、1月30~31日)
 日銀金融政策決定会合(10月29~30日、12月18~19日、1月22~23日)
 ECB政策理事会(10月30日、12月18日、2月5日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年9月18日	FOMCを終えて～可視化される独立性毀損～
2025年9月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー～自動車、読めず～
2025年9月16日	日米財務大臣共同声明の読み方～2つの論点～
2025年9月12日	週末版(ECB政策理事会を終えて～基本は現状維持、利上げの機を窺う～)
2025年9月11日	警戒すべき「買い事故」～海外からの財政リスク相場～
2025年9月10日	円相場の需給環境について～頭打ちとなるヒト関連～
2025年9月9日	誰が「首相になっても」変わらぬ3つの論点
2025年9月8日	続・対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年9月5日	週末版
2025年9月4日	遂に「利上げ再開」の兆しも出始めたECB
2025年9月3日	対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年8月28日	週末版
2025年8月27日	円金利上昇の背景はどこに～円安終わらず～
2025年8月25日	ジャクソンホール経済シンポジウムの読み方
2025年8月22日	週末版(「ユーロ圏の「人手不足」はどうなったのか?～「需要不足」への問題意識は高止まり～)
2025年8月20日	4～6月期、「米国離れ」の真相～TICデータ～
2025年8月19日	上半期の円の需給環境について～改善傾向～
2025年8月18日	欧州の外交成果が垣間見えた米露首脳会談
2025年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年7月分)
	週末版(「家計部門の投資意欲」に腰折れ懸念～「海外→国内」のローテーションはあるか?～)
2025年8月14日	ニクソン・トランプ比較論～争点は「覇権国の管理コスト」～
2025年8月13日	ニクソン・トランプ比較論～恐れるべき結末～
2025年8月12日	過剰反応すべきではないFRB人事の影響
2025年8月8日	週末版
2025年8月5日	米EU交渉の評価～妥協か、英断か～
2025年8月4日	遂に現れた関税の影響～雇用統計の読み方～
2025年8月1日	週末版(日銀会合を終えて～霧は完全に晴れずも10月利上げが視野に～)
2025年7月31日	FOMCを終えて～年末以降、非常に厄介な状況に～
2025年7月29日	「米国離れ」の検証～5月は過去最大の資本流入～
2025年7月28日	対米投資利益の解釈～「90%取られる」の意味～
2025年7月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月から状況変わらず～)
2025年7月23日	日米関税交渉の合意について～日銀への影響あり～
2025年7月22日	参院選を終えて～現状と展望の整理～
2025年7月18日	週末版(日銀プレビュー～「前門の国内政治、後門の米国政治」～)
2025年7月16日	日本版トラスショック再考～脆弱性は否めず～
2025年7月15日	日本版トラスショック再考～現実味を考える～
2025年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年6月分)
	日本政治の現状と展望～日本売りの材料になる政治～
2025年7月11日	週末版
2025年7月10日	追い詰められているのは米国も一緒～TACOの前提～
2025年7月9日	関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～
2025年7月8日	膠着する家計の投資意欲とその今後
2025年7月7日	物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～
2025年7月4日	週末版
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～)
2025年6月18日	貫かれなかった「べき」論～優しさの代償は?～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分)
	週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～)
2025年6月12日	日銀会合プレビュー～「もう関与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直投目標の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文?～
2025年6月6日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり?～)
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会プレビュー～利下げは当然視できる?～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか?
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～
2025年5月23日	週末版(ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～)
2025年5月22日	円金利上昇と為替相場についての所感
2025年5月21日	赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～
2025年5月19日	米国価格下げの影響～急性的ではなく慢性的～
2025年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年4月分)
	週末版
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～)
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマંデートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方
2025年5月2日	週末版(日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～)
2025年4月28日	EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～
2025年4月25日	週末版
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか?
2025年4月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～)
2025年4月17日	マールアラウゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分)
	日米通商交渉プレビュー～論点の検討～